

応急手当講習テキスト

(乳児用)

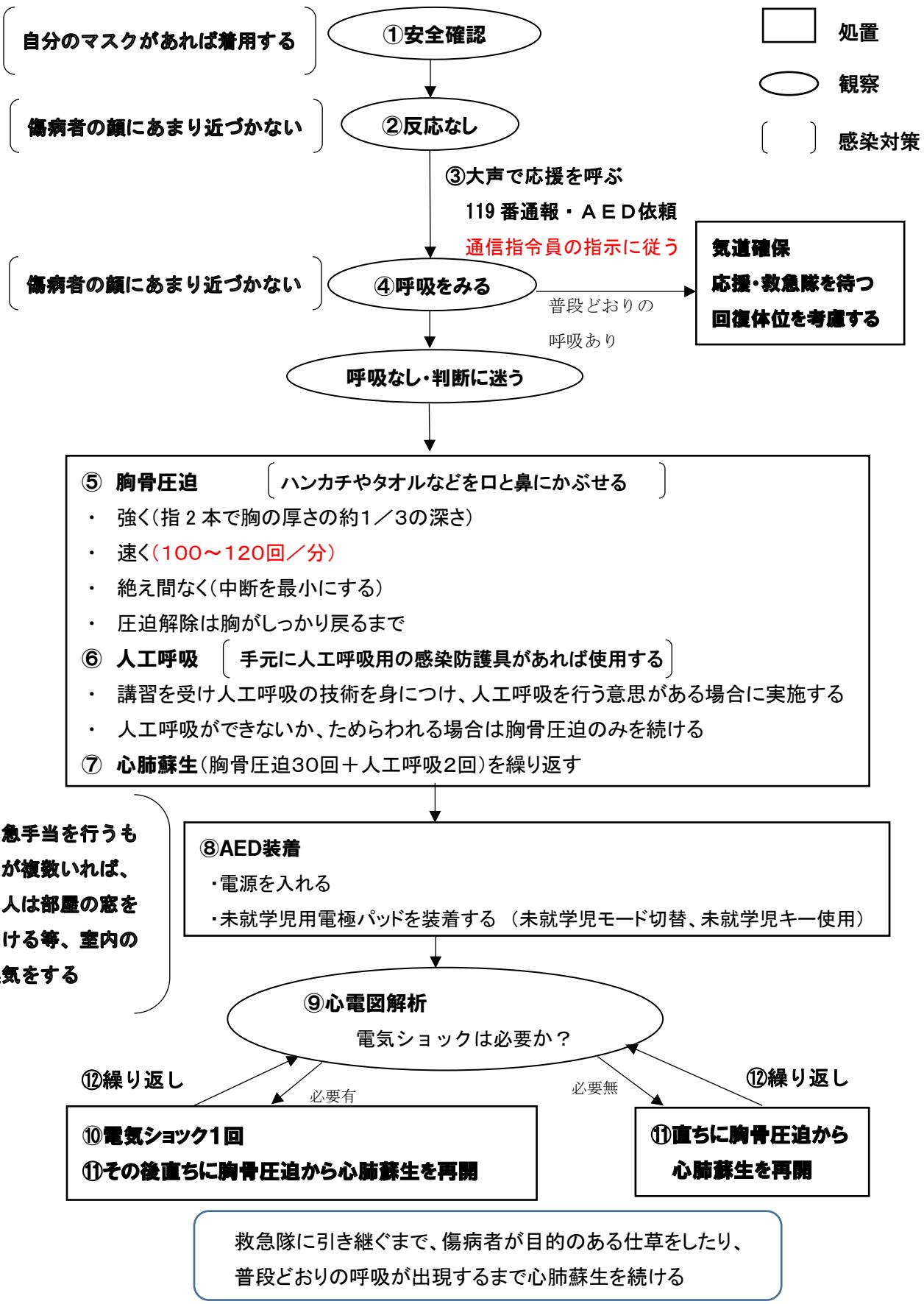
ガイドライン 2020ver.
〈感染症対応〉



救命の連鎖

名張市消防本部 名張消防署

救命処置の流れ(心肺蘇生とAEDの使用)



- ・救急隊に傷病者を引き継いだあとは、速やかに石鹼と流水で手と顔を十分に洗う
- ・傷病者の口と鼻にかぶせたハンカチやタオルなどは直接触れないようにして廃棄する
- ・うがいをする

※感染対策

すべての心停止傷病者は、感染の疑いがあるものとして対応する。

自分のマスクがあれば着用する。

心肺蘇生法の手順

1. 反応の確認



- 足の裏を軽く叩きながら呼びかけ、反応を確認する。

※感染症対策

傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

2. 通報とAED



119番に通報し、

AEDを持って来て！

- 反応がない場合、大声で応援を呼ぶ。

- 119番に通報、AEDを手配する。

(誰もいない場合は、自分で行う)

3. 呼吸を見る



- 胸とお腹の動きを見る。

- 呼吸がないか、普段どおりでない場合や、

判断に迷う場合は呼吸が止まっていると判断する。

※感染対策

傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

4. 胸骨圧迫



※感染対策

ハンカチやタオルなどを
口と鼻にかぶせる



- 両乳頭を結ぶ線の少し足側を指2本で圧迫
- 深さは、胸の厚さの1/3
- 速さは、毎分100~120回のテンポ

5. 人工呼吸（胸骨圧迫30回後、人工呼吸を2回行う）

(1) 気道確保



※感染対策

- ・手元に人工呼吸用の感染防護具があれば使用する
- ・講習を受け人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を行なう意思があれば実施する

- 頭側の手を額に置く。
- 足側の手の指先をあご先にあてる。
- あご先を持ち上げながら、頭を後ろにそらす。

(2) 人工呼吸



- 口を大きく開き、相手の口と鼻を覆う。
- 相手の胸が上がる程度、1秒かけて2回吹き込む。

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組合せを絶え間なく続ける

※感染対策

応急手当を行うものが複数いれば、一人は部屋の窓を開ける等、室内の換気をする

AEDが到着したら



1. 電源を入れる



- AEDの電源を入れる。
- 音声ガイダンスとランプに従い操作する。

2. AEDのパッドを貼る

- 電極パッドは、胸と背中に貼り付ける。
(肌にしっかりと密着させる)



○未就学児
・未就学児用パッド

未就学児キーの使用 未就学児モード



3. 傷病者から離れ、心電図解析



- AEDのパッドを貼り付けると、自動的に心電図の解析が始まります。この時、「離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認する。

4. 必要なら通電ボタンを押す(※)



- 通電ボタンを押す際は、必ず自分が傷病者から離れ、さらに誰も傷病者に触れていないことを確認する。

※注意

オートショック AED の場合、電気ショックボタンがなく、自動で電気ショックが実施されるため、音声ガイダンスをよく聞き、指示に従う。

AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、心肺蘇生法の手順を、できるだけ絶え間なく続けることが大切です。

※感染対策

- ・傷病者を救急隊に引き継いだ後は、速やかに石鹼と流水で手と顔を十分に洗う
- ・傷病者の口と鼻にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れずに廃棄する
- ・うがいをする